

レンタルで時代を拓く

AKTIO

AKTIO

June
No.14

Communication Magazine

KEY PERSONに聞く ～旗手たちの競演～

どの現場でも、お客様に必ず「何か」が残るように
i-Constructionにかかわる
すべてのプレーヤーを支援したい

AKTIO NEXT

**日本初!!
お掃除ロボが華麗に競演!**

「ビルメンテナンスロボット普及促進センター」

AKTIO NETWORK

北の大地を拠点に、
ユーザー発想の建機レンタルで
未来を拓く

Vol.1 株式会社共成レンテム

AKTIOは

i-Rensultingへ!



日南 茂雄 ひなみ・しげお

1972年愛知県名古屋市生まれ。2004年入社。名古屋支店営業課道路機械担当、松阪営業所所長をへて、現職はレンタルディング本部道路機械事業部 ICT施工推進課 課長。ICTを含む汎用機、道路機械の営業に取り組む。

どの現場でも、お客様に必ず「何か」が残るように
i-Constructionにかかわるすべてのプレーヤーを支援したい

レンタルディング本部 道路機械事業部 ICT施工推進課 課長 日南茂雄

i-Construction

UAVによる起工測量

KEY vol.001 **Shigeo Hinami**
PERSONに聞く
////////// 旗手たちの競演

未来へ向け、各分野で挑戦の場を広げるAKTIO
次代を担うキー・パーソンたちが熱く語る！



2015年度に国土交通省が開始した「i-Construction」は、ICT技術を全面的に活用して建設現場の効率化を目指す取り組みである。2020年の東京オリンピックをひかえ、各地で道路の新設や改修が相次ぐ今、レンタルディングはどのような役割を果たすべきなのか。「i-Construction」推進のキー・パーソン、ICT施工推進課の日南茂雄 課長に話を聞いた。

建機へのICT 導入は舗装工事 から始まった

— 国土交通省が推進している「i-Construction」では、測量・設計から施工、管理に至るまで、建設の全プロセスにおいてICT化を取り入れる、とされています。日南課長が所属している道路機械事業部の業務内容と、ICT化へ向けての現在に至る進捗状況を教えてください。

「日南」道路機械事業部は、ホイールローダやロードローラ、フィニッシャーなど、道路工事に使用する機械のレンタルを専門に行う部門です。施工会社はもちろん、測量会社など、工事にかかわるさまざまな方たちと連携をとったり、適切な機器のご提案や、使用にあたっての指導などを行っています。

進捗については、AKTIOは2008年から建機へのICT導入を推進してきました。この

年、国土交通省が「情報化施工推進戦略」を打ち出したのですが、その内容は施工部門でICT建機を活用し、効率的な施工を行っているというものです。効率化の対象を測量や出来形管理にまで広げた「i-Construction」は、その延長線上にあるわけです。

— ひとことでICT化といっても、道路工事のどの部分から手をつけたのでしょうか。

「日南」道路工事におけるICTの導入は、まず舗装工事から始まったという経緯があります。グレーダやブルドーザが行う路盤敷均し作業から始まり、その上の舗装、さらにその下の土工事へと範囲を広げていきました。



高水準なサービスを提供するため、保守点検を行うエンジニアリング事業部と連携



法面整形中のMGバックホー (GNSS)

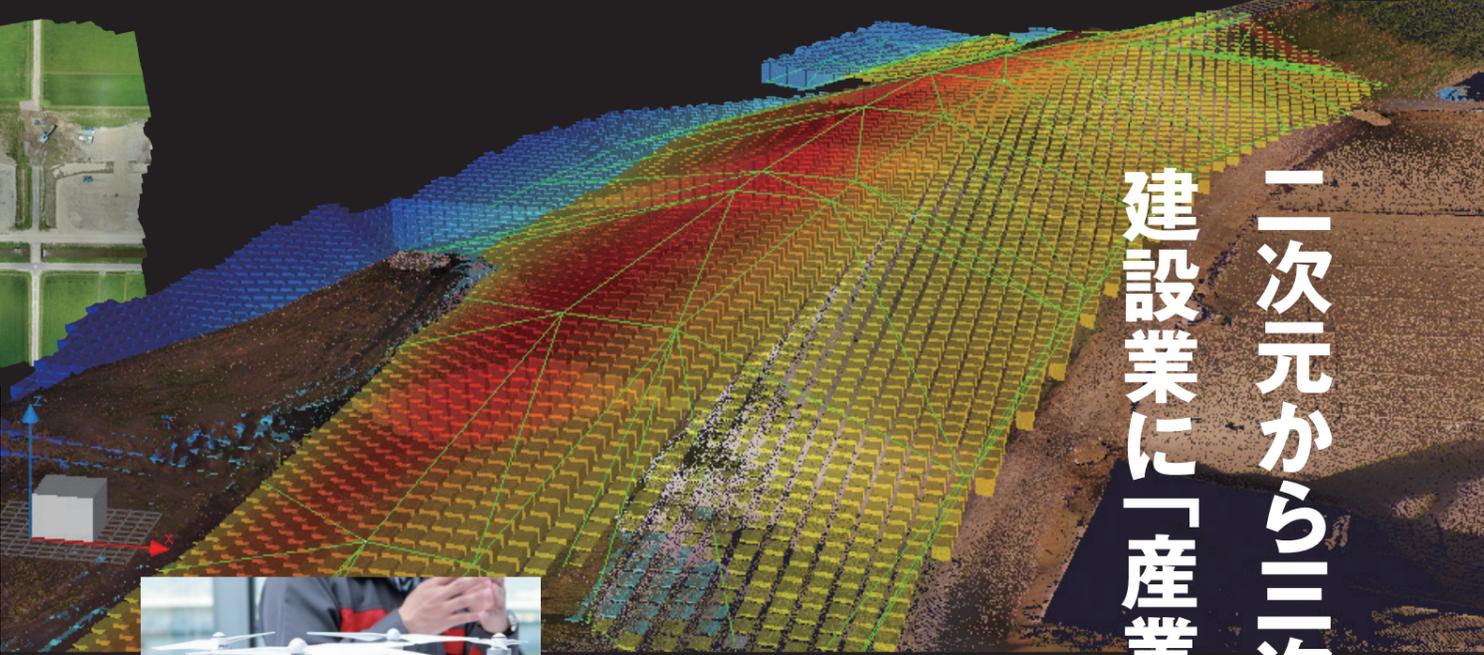


高精度な整形作業中のMCブルドーザ (GNSS)



ドローンで空から撮影した複数枚の写真を組み合わせて、傾きや歪みを排して正確な位置と大きさに表示されるように補正した「写真画像」

二次元から三次元への進化が建設業に「産業革命」を起す



UAVの写真測量から作成した点群データと、三次元設計データを元に施工数量や土量を算出する。
 上:三角網による土量計算
 左:3次元点群データを捉えるUAV



【日南】国が「i-Construction」を政策として推進しているといっても、小規模な工事業者さんなどでは、人手不足でなかなか対応しきれないという現状があります。データの三次元化にしても、自分たちではつくりえないから外注しようという流れになりがちです。でも、外注に頼っているのは、工事が終わった後、自分たちの会社に何も残りません。三次元データのつくり方を覚えていただければ、その現場が終わっても技術が残り、それを次の現場に活かすことができます。

私たちは、「Construction」に参画したいという気持ちをもっておられる方を全面的に支援していきたいのです。ですから、技術でも知識でもお客様に必ず何かが残るよう、機械を貸すだけでなく、施工方法の提案や教育面に注力しています。

—— 研修のためのトレーニングセンターなど、設備も充実していますね。

【日南】 取引先によって必要な技術も違いますから、セミナーを開催する際は、「設計だけ」「測量だけ」のようにコースを選ぶこともできます。コンピュータという難しく

思われがちですが、使い方を覚えるだけなら難しいことはありません。やる環境さえ整えば誰でもできます。

—— 座学だけでなく、さまざまなメーカーの実機にふれて研修できるのもAKTIOならではの強みですね。ただ、知識や技術を取引先と共有することで、損をしている部分もあるという考え方もあります。

【日南】 周囲に技術が流れないよう、自社ですべてを抱え込むのもひとつの方法だとは思いますが、それでは取引先の発展につながりません。AKTIOは、自社だけでなくとどまらず広く人を育て、知識や情報を共有することで、新たな市場を創りあげることを目指しています。そのためにも、創造力とイメージネーションを磨きあげ、提案力のフィールドを広げていきたいですね。

「i-Construction」の推進には、大企業だけでなく、地方の小規模業者もICT化に参画できる環境づくりが欠かせない。AKTIOのレンタルリングが果たす役割は、これからますます大きなものとなりそうだ。

—— 従来型の工事とICT導入後の工事の最も大きな違いは？

【日南】 測量や施工、出来形管理に使用されるデータが、二次元(断面管理)から三次元(面管理)へと進化したことです。この進化は、建設業界における産業革命といっても過言ではないと思います。

—— データの果たす役割はそれほど大きいということでしょうか。

【日南】 建機に位置情報などさまざまな情報データを与え、機械の自動制御などによる効率的で精度の高い作業を実現するのが「情報化施工」ですが、おおもとなる測量データを用意する方法にもいろいろあります。

まず行うのは起工測量です。従来ではトータルステーションを使い、工事前の地形を設計の横断

図と重ね合わせ、変化する箇所を20mごとに測量を行います。そうして、工事の施工土量を求めます。20mごとの測量となるので、設計内のすべての場所を計測するのは不可能です。ですから実際の施工にあたっては、断面だけの二次元データで作成された図面をもとに、データのない部分については建機のオペレーターが自分の技量で判断することになります。これが三次元になると、ドローンによる空中写真測量を行います。80%以上ずつラップさせて写真を撮っていくのですが、ステレオカメラの原理により、土地の起伏まで正確に測量することができます。この測量で得られた三次元測量データと三次元設計データを重ね合わせると、図面のどの部分を輪切りにしても設計との差分を見ることが出来ます。

—— 現場の地形にマッチしたリアルな図面で正確かつ効率的な施工ができるわけですね。

【日南】 マシンコントロールの機械であれば、ブルドーザのブレードが、設計通りの高さに合わせて自動的に

に動いてくれます。将来は、施工図面だけインプットすれば、AIが自動的に工事をやってくれる時代が訪れるかもしれません。

—— 施工後の管理についても、先ほどのドローンによる三次元測量を再度行えば、設計通りの施工が行われたかどうか、簡単に判断できますね。

【日南】 その通りです。人を動員して限られた場所で行う出来形管理よりも、格段に精密な検査が可能です。

「教育」の場を広げ新たな市場を創造する

—— 日南課長が取引先にさまざまなサービスを提供するにあたり、大切にしていることは何でしょうか。

【日南】 機器を提供する際は必ず導入指導を行い、使い方をきちんと理解していただくこと、そして、現場が確実に終わるよう、最後の最後までしっかりとサポートすることです。

—— 機械を貸すだけではなく、その機械を使いこなせるよう「教育」することも大切なのですね。

i-Constructionの現場



群馬県太田市 河道拡幅工事

本工事では起工測量をLSで実施。VRS方式は基地局がいらないので、移動局だけを重機などに取り付けて、環境を整えればすぐに作業が始められる。また、ローカライゼーションの実施により、自動的に現場座標の計測値も得られる。これらのICT活用により高度な施工精度が可能となり、飛躍的な生産性の向上が見られた。

工事概要
 工事名: 社会資本総合整備(防災・安全)河道拡幅工事(分割1号)
 発注者: 群馬県太田市土木事務所
 受注者: 萩原建設株式会社

土工量: 切土:2484.449m³/盛土:107.906m³
 施工延長距離: 施工延長225.6m
 起工測量: LS

出来形測量: LS
 使用ICT建機: MCバックホー
 測量システム: GNSS-VRS



埼玉県さいたま市 護岸工事

LS起工測量により通常の光波測量と比べ作業時間が約半分に短縮。施工ではAKTIO保有のMGバックホー、締め固め管理システムの使用により、丁張り・法肩・小段の位置出しといった作業が不要となり、均一で高品質な法面整形が実現できた。また、積極的なICTへの取り組みは、自治体からも高い評価を得ている。

工事概要
 工事名: 埼玉県さいたま市 浦岩橋下流護岸工事
 発注者: 埼玉県総合治水事務所
 受注者: 島田建設工業株式会社

土工量: 約11,420m³
 起工測量: LS
 出来形測量: LS

使用ICT建機: MCブルドーザ/MGバックホー

日本初!

お掃除ロボが華麗に競演!
見て、動かして、導入相談まで

ビルメンテナンス ロボット 普及促進センター 開設

建設業界と並び、今、深刻な人手不足に悩まされているのがビル管理業界。中でも頭が痛いのは、空港やオフィスビルなどの大規模な清掃作業だ。そこで期待されるのが清掃ロボットだが、大型だけに高額で購入のハードルも高い。昨年12月、AKTIOはこの課題を解決すべく、一步を踏み出した。



2017年12月にオープンした、AKTIOビルメンテナンスロボット普及促進センター。こちらで各ロボットの清掃実演を体験できる。

ビルメンテナンス 業界にロボットの 普及促進を

AKTIOは2017年12月13日、自動運転の業務用清掃ロボットを展示、体験できる「ビルメンテナンスロボット普及促進センター」(通称:ビルメンテナンスセンター)を東京・日本橋の本社内に開設した。同日に行われたプレスレビューでは、実機によるデモンストレーションも行われ、各メーカーの業務用清掃ロボットが次々と登場。壁が近くとひとりでに方向転換するなど、スムーズな作業ぶりを披露した。

政府の「ロボット新戦略」において清掃などサービス分野のロボット化が求められるなか、3.8兆円市場といわれるビルメンテナンス業では、人手不足・高齢化対策が喫緊の課題となっている。そのため清掃ロボットへの関心も高いが、高額なものでは数百万円という価格がネックとなり、具体的な導入方法を学習できる場も整っていないことから、導入は広がっていないのが実情だ。

AKTIOが目指すのは、ロボットに関心を持つユーザーが、導入に必要なサービスを受けられる環境を実現すること。同社も参加する「ビルメンテナンスロボット普及促進コンソーシアム」と連携しつつ、今後、ビルメンテナンスセンターをフル活用していく考えだ。



アmano
SE-500iXII



マキタ
ロボプロ



大和ハウス工業
moogle



セールス・オンデマンド
window mate



中西金属工業
ロボクリーパー



フィグラ
エフロブクリーン



アmano
RcDC

業務用清掃ロボに 特化した レンタル業務も開始

ビルメンテナンスセンターには、AKTIOの強みである「レンタルティング」のノウハウが最大限に活用されている。メーカーの枠を超えた6社7機種の業務用清掃ロボットを常設展示し、タイルカーペットと樹脂張りの2種類の床で実際に性能が確認できるほか、操作体験、各種講習、導入相談まで、総合的な導入支援サービスを提供。加えて、ビルメンテナンス分野を代表する公益社団法人全国ビルメンテナンス協会とも協力し、業務用清掃ロボットの具体的な導入手順や方法を取りまとめた業界初となる教材を作成し、関係者に広く活用してもらう取り組みを進めている。

2018年1月からは、日本初となる総合的な業務用清掃ロボットのレンタルを開始した。もちろん、ただ貸すだけでなく、現場に応じた機種選定のアドバイスから導入手順、安全措置の指導まで、しっかりとサポートを行う。レンタル料金は、機種にもよるが月額10万〜15万から。初期費用を低く抑えることができる。ビルメンテナンス分野におけるロボットの本格的な普及は始まったばかり。これからはますます、お掃除ロボの活躍を目にする機会が増えそう。

レンタルで未来を築く AKTIOグループ企業の紹介



機器レンタルを通じ、人と地域に元気を届けたい

さらに1990(平成2)年、商号を現在の株式会社共成レンテムと変更してから、同社は事業内容・規模ともにさらなる発展を遂げた。1998(平成10)年には、地元と協力して農産物の増収を可

1980(昭和55)年には、総合的な建設機械レンタル会社として商号を共成産業株式会社に変更。以降の同社の発展ぶりはめざましい。

まず埼玉営業所の開設によって関東進出の足がかりをつくる一方、従来は道東中心だった商圏を北海道全域に拡大。さらには建設機械だけでなく、農業・酪農家を対象とした農機具のレンタルも開始するなど、「さまざまなお客様の声に耳を傾け、現場に

必要なものを提案・提供する」というポリシーを貫き、ジャンルの垣根を超えた機器レンタルシステムを構築していった。

全国的に見ても、建機レンタルを行う会社が農業分野も手がけることはあまり例がない。「建機なら共成」という評価とともに、農業や酪農の現場からは「農機なら共成」と頼りにする声も聞かれる。

「建機レンタルの総合力を磨く一方で、農機という得意分野を持ち、創業の地、十勝で農業に従事する方々をサポートしていることに自負があります」と語る社員の声も誇らしげだ。

地元の農業・酪農にも貢献「農機なら共成」の声も

AKTIO NETWORK
Vol.1 | KYOSEI RENTEMU CO.,Ltd

株式会社 共成レンテム

北の大地を拠点に、ユーザー発想の建機レンタルで未来を拓く

日本有数の農業地帯・ばんえい競馬で知られる帯広市で誕生し、現在は道内にとどまらず全国に100近い拠点をもつ共成レンテム。明治時代にさかのぼる北海道開拓の精神そのままに、現場の声に全力で応えることで新しい市場を切り拓いてきた。「今ここにあるものを現場にあてがうのではなく、現場に必要なものを提案する」その精神は、「ハードとハート」で地域に元気を届け続けている。



建設業者からの声に応えレンタル業をスタート

北海道を拠点に北は稚内から南は行田まで、機器レンタルを中心に幅広く事業を展開している株式会社共成レンテムの前身は、1963(昭和38)年、帯広市で設立された共成電機産業株式会社である。設立当初の主な業務は、電気配線工事と電機品の修理だった。だが、おりしも高度経済成長を背景に、建設工事の件数や現場での機械使用の頻度

共成レンテムの行動指針～3つのF



役に立つ「物」を役に立つ「心」でお届けすることが、共成レンテムの基本理念。「Fair」「Flexible」「Forward」という3つのFを行動指針に、新時代のレンタルシステムを提案している。



北海道ならではのユニークなオリジナル商品も!
北海道新幹線開業PRキャラクター
<左>どこでもユキちゃんセーフティコーン
<右>どこでもユキちゃんバリケード

が急増。これにともない1971(昭和46)年、同社は建設業者からの要請に応えるかたちで発電機、エンジンウエルダーなどの電機品を中心にレンタル業を開始する。その後、現場の機械化がますます加速するなか、レンタル市場の急成長を見込んだ同社は、ブルドーザやショベルローダーなどの重機械類、ポンプ類など取扱アイテムを大幅に拡充。より的確に現場のニーズに応えるべく、本格的にレンタル業へと舵を切ることとなった。



とちぞセオライト

能にする土壌改良材「ゼオライト」の生産・販売をスタート。「ゼオライト」は上士幌町の「二村」にも指定され、動植物の発育促進や消臭など、多くの可能性が期待されているという。

そして2005(平成17)年、株式会社アクティオと包括的業務提携契約を締結。AKTIOグループの「員」となった。

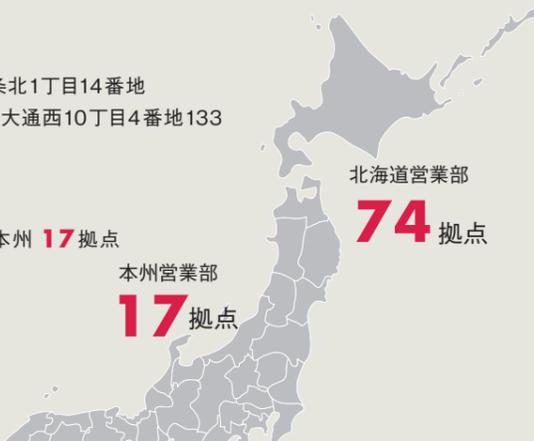
現在、同社の手がける事業は、建設機械レンタル、建設現場周辺設備レンタル、農業支援事業、イベントサービス・広告事業、ゼオライトの生産・販売事業、携帯電話事業の6分野におよぶ。AKTIOグループとしてのシナジーを發揮しつつ、設立以来培ってきたノウハウと役に立つ物を、役に立つ心でお届けする」という設立以来の精神で、今日も地域に元気を届け続けている。

株式会社共成レンテム 概要



帯広本店
札幌本社
設立
資本金
営業部
事業部
売上高
従業員

北海道帯広市西18条北1丁目14番地
北海道札幌市中央区大通西10丁目4番地133
南大通ビル新館3F
1963年10月25日
5億円
北海道 74 拠点 本州 17 拠点
事業部 5 拠点
売上高 240 億円
計650名



日本赤十字社主催の防災・減災啓発プロジェクト

「私たちは、忘れない。」～未来へつなげる防災・減災プロジェクト～に参加

AKTIOは、2018年3月1日より日本赤十字社主催の「私たちは、忘れない。」～未来へつなげる防災・減災プロジェクト～に参加した。

このプロジェクトは、東日本大震災から5年を契機にスタートした企画で、今なお被災地で苦しんでいる方々に思いを寄せるとともに、この災害で得た教訓や経験を忘れることなく、将来起こりうる災害に対応する力を社会全体で育てていく活動。さまざまな企業・団体が賛同し、全国的に活動を展開している。

このプロジェクトに賛同し、サポーター企業として3回目の参加となるAKTIOは、「防災・減災」をより地域社会に普及・浸透させていく未来志向のプロジェクトを推進。また、3月1日から4月30日まで、AKTIOグループ全事業所にポスターを掲示し、リーフレットの配布およびプロジェクトバッジの着用を実施した。

AKTIOは今後も、さまざまなプロジェクトを通じて豊かな社会づくりに貢献する活動を続けていく。



AKTIO PEOPLE 輝け! AKTIO人

入社して一番驚いたのが、ICT技術のすごさ。これからどんどん社会を変えていく力を秘めていると思います。

レンサ尔特ィング本部 道路機械事業部 ICT施工推進課
中野 愛美さん 2016年入社



このコーナーでは、イキイキと働くAKTIO人をご紹介! 今回登場するのは入社3年目の中野愛美さん。名古屋・北陸・関西・四国の営業担当として活躍中の中野さんが、仕事を通じて発見したことは…?
— AKTIOに入社したきっかけは?
【中野】 就職活動を始めたころは、職種も業界も、はっきりした希望はありませんでした。業界研究もかねてたまたまAKTIOの個別企業説明会に参加し、ここなら入社してやりたいことが見つかりそうだと考えたんです。

— 運命の出会いだったんですね。決め手になったのは?
【中野】 説明会の動画で、東日本大震災の復興へ向けての「レンサ尔特ィング」の役割や、その中で必要とされる「即戦力」のあり方を知り、ああ、この会社は力がありそうだ、と。
— 学生時代、心理学を学んでいたそうですね。
【中野】 そうなんです。ちょっと畑違いですよ。でも、教育心理や教育実習の経験は、セミナーの講師を務める上でとても役に立っています。私はもともと教師になるのが夢

だったので、今の立場には非常にやりがいを感じます。
— 入社して一番驚いたことは?
【中野】 ICT技術です。入社するまでは土木工事の流れすら知らなかったんですが、知れば知るほど、機械のICT化が進むことでどんどん人間の労力が省かれていくのが分かり、これはすごいことだと思いました。今後は省人化、省力化がさらに広まって手配や配送はもちろん、すべての資産の状況をコンピュータで把握できるようになるのではないのでしょうか。
— ご協力、ありがとうございました!

最新のAKTIOが集結! 見て、触って、体験できる! 北海道・千歳を皮切りにレンサ尔特ィングフェアを開催!

AKTIOは、建設業の最新動向を紹介し、未来へ向けての提案を行う「レンサ尔特ィングフェア」を全国で開催。同フェアは、レンサ尔特ィングの実例展示はもちろん、ICT・IoTに対応した重機をはじめとする最新鋭建設機械の体験会や各種セミナーなど、来場したお客様にAKTIOの提案力、技術力、開発力、すべてを体感していただける充実した内容となっている。

全国の先陣を切って4月25日、26日の両日、北海道・千歳で開催された「レンサ尔特ィングフェア in 千歳」は大盛況。



「Safety Training System VR of AKTIO」体験風景

会場では、「ICT・IoT」「防災」「安心・安全」「レンサ尔特ィング」の4テーマに沿って約110種の重機や機材が展示され、とりわけ7月からレンタルが予定されているVR(仮想現実)「セーフティートレーニングシステムVR オブ AKTIO」は、その圧倒的な没入感で来場者の注目を集めた。ほかにも、街路樹伐根機「根こそぎ切るソー」(下欄参照)など、道内初お目見えの機器が多数登場。好評のうちに幕を下ろした。「レンサ尔特ィングフェア」は、順次、全国で開催。



集合写真



橋梁点検車 BT-400



レンサ尔特ィングフェアin千歳 会場全景

AKTIOが開発した「根こそぎ切るソー」が第43回発明大賞で考案功労賞を受賞!

2018年3月8日(木)、第43回発明大賞(主催:公益財団法人日本発明振興協会・日刊工業新聞社)において、AKTIOと株式会社サイニチが開発した街路樹伐根機「根こそぎ切るソー」が考案功労賞を受賞した。発明大賞は、独創性に富む発明によって優秀な技術・製品を生み出した企業を表彰し、その功績を広く紹介するもの。

従来、街路樹等の切り株は、チェーンソーを用いて人力により伐根していたが、今回受賞した「根こそぎ切るソー」は、低騒音の油圧駆動の回転式ホルソーを用い、簡単な機械操作により、切り株の根を確実に切断された状態で振り出すことができる。

これにより、道路植栽工事などで、切り株周囲の構造物等を破損することなく、切り株の根を取り除くことが可能になった。



ホルソーは油圧駆動で回転。約80cmの深さまで掘削し、横根を切断します。



今日も
ごあんぜんに
みんなで守る、みんなの安全

+ 今回のテーマ 安全衛生標識

日頃の安全対策に役立つ情報をご紹介します！
1人ひとりがしっかりと意識をもって
安全な職場を実現していきましょう。

たかが標識、されど標識。あなたはしっかり覚えていますか？

ご存じのように、建設現場では危険な箇所などにさまざまな標識が掲示されています。これらの標識は、重大な事故を招く恐れがある場合や情報の開示という観点から、労働安全衛生法令等で掲示または表示を義務づけられています。また、中央労働災害防止協会（中災防）や建設業労働災害防止団体（建災防）なども推奨しています。保護具・機器類と異なり、安全衛生標識は、標識自体が物理的に人間の身を守るものではありません。しかし、これらは危険箇所の警告や安全な方向への誘導を目的とする重要なサインですから、埋没しない場所に掲示した上で、職場の全員が正しく意味を理解していないと、思わぬ危険を招くことになります。災害の発生を未然に防止するためにも、安全衛生標識への理解を深めることが必要です。

ある安全の専門家によると、作業場を訪問した際に、その作業場の安全意識レベルをわずかに10秒で、かなりの確率で見分ける方法があるそうです。それは、安全や衛生に関する標識が適切な場所に掲示されているか、また掲示されている標識が汚れていないかに注目することだそうです。

また、事故の多発する作業場で、「安全第一」の標識を、作業員1人ひとりが交代で毎朝、たとえ汚れていなくても手作業で磨くよう指導したところ、その作業場では、短期間に事故が減少したそうです。

こうした例が雄弁に語るように、たかが標識、されど標識。職場の「安全文化」は、1人ひとりの作業員の意識に支えられています。安全や衛生に対する意識を高めるために、職場の安全衛生標識を改めて見直してみてもいいかもしれません。

JIS安全標識の一般事項

安全色	意味	使用箇所及び使用例	標識の基本形状	標識例
赤	禁止・防火	立入禁止などの禁止標識、消火器、非常用電話などの防火標識		
黄	警告	高電圧危険、足もと注意、爆発物注意などの警告標識		
緑	安全状態	安全旗および安全指導標識、労働衛生旗および、非常口の位置および方向を示す標識など		
青	指示誘導	保護帽着用、修理中などを示す指示標識など、駐車場の位置誘導標識など		

色や形にも
意味が
あるんです！



編集後記

私が卒業した小学校が閉校することになり、3月25日(日)、閉校式が行われました。明治に開校し、自分の祖父や祖母、父も通った145年の歴史ある小学校です。

徐々に小学校を訪れ、懐かしい気持ちに浸りながら式に参加しました。式では最後の在校生17名や卒業生、地域の人々と一緒に校歌を歌いました。卒業してだいぶ時間が経過しているのに、校歌を忘れて歌えた自分にビックリしました。何かがなくなることは寂しいことですが、その当時の思い出はいつまでも心に残ります。小学校卒業のとき、

担任の先生から1人ひとり色紙に書かれた言葉を貰いました。私は「努力」という言葉を頂きました。なぜ努力なんだろう？とその当時は全く分かっていなかったのですが、今になって考えると、努力することを忘れず、何事にも諦めず向かっていくなさいという先生のエールだったのではないかと思います。小学校の思い出を胸に秘め、今後も「努力」することを忘れず、何事にも取り組んでいきたいと思えます。

営業企画部 広報課 成澤



今号の表紙写真

写真は、「i-Construction」推進に欠かせない代表機、3Dマシンコントロール・バックホウ。3Dマシンコントロールユニットを装着することで、セミオート・マシンコントロールが可能に。これにより、常に計画面に合った施工を短期間で行うことができる。